

ベニガイ *Pharaonella sieboldii* (Deshayes)

【選定理由】

本種は湾口部から外洋に面した海岸の潮下帯の砂泥底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、本種も明らかに生息場所、個体数とも激減している。

本種もかつては知多半島伊勢湾側、渥美半島外海側で新鮮な死殻が比較的多く打ち上げられていたが、近年は全く採集できない。1999年から3回(30地点以上)におよび知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部をドレッジにより調査したが、古い死殻も採集されなかった(木村, 2000; 木村, 未発表資料)。

近年の調査では、比較的大型の二枚貝で目立つ本種の死殻破片さえ採集できない。県内での危機的な生息状況から絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された(前回 EN からランクアップ)。



【形態】

殻長約 60 mm で、殻は前後に長く、特に後縁は吻状に長くのびて、右にねじれ、後端は尖る。殻はやや薄く鮮やかな桃色で、膨らみは弱く扁平。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が著しく減少し、近年生貝が採集されない。本種はやや外洋性で、やや深い水深帯まで生息するので、渥美外洋の水深 20 m より深い場所に生息域が残されている可能性があり、外洋にかけての浅海で操業する底引き網での調査も行ったが、近年死殻も全く採集できない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、国内では、北海道南部～九州に分布する(山下, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。近年生貝の採集記録がないので、危機的生息状況といえる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

勢水丸(三重大学生物資源学部)による三重県側の伊勢湾湾口部のドレッジ調査でも近年死殻も確認できず、伊勢湾湾口部を含めて伊勢湾全域で本種が絶滅した可能性が高い。なお志摩半島の英虞湾では、かろうじて合弁の死殻が現在も確認できる(木村・佐藤, 未発表資料)。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20. 名古屋貝類談話会.  
山下博由, 2012. ベニガイ, p127. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)